

## 南ア月報

(2011年1月)

在南アフリカ日本国大使館

### 1. 内政関連

#### ●ANC99周年の記念集会開催

8日、与党ANCの創立99周年を祝う記念集会がポロクワネにて開催され、党執行部を代表してANC総裁であるズマ大統領が演説した。大統領は、会場であるピーター・モカバ・スタジアムに集まった約6万人の聴衆を前に、新経済政策NGP(New Growth Path)に沿った経済社会変革を行うことで2011年を雇用創出の年にする、今後10年の間に500万人の雇用を創出すると語りかけ喝采を浴びた。

#### ●第4回地方選挙キャンペーンの開始発表

12日、南ア選挙委員会(IEC)は第4回地方選挙キャンペーンの開始を発表した。今年は、8つの大都市圏評議会、231の地方評議会、47の広域地方評議会、4277の選挙区の議席をめぐる選挙戦が繰り広げられる。今年の選挙キャンペーンのキャッチコピーは“Love Your South Africa”。有権者登録は2月5日、6日に予定されているが、IECは150万人の新有権者の登録をねらい、若年層の投票参加を呼びかけている。

#### ●洪水被害拡大

例年になく大雨により各地で洪水の被害が拡大中。24日の協調統治・伝統業務省からの発表によると、被害額は3億5600万ランドにもものぼり、これまで約70人以上が死亡、約8400人が住む場所を失った。ヴァール川、オレンジ川沿い地域は川が氾濫したことで農地が水浸しとなり、今後の収穫への影響が危惧されている。国内の主要ダムでも貯水許容量が超え、周辺住民に注意警報が出されている。クワズールナタール州、東ケープ州では特に大きな被害が出ている。国家宝くじ委員会は、洪水被害者に対し5千万ランドの支援を行うと発表した。一方農業省は、個別補償は行わないが、被害者支援を行っていくと述べるに留まった。

#### ●マンデラ元大統領の「健康悪化」騒ぎ

26日、マンデラ元大統領がヨハネスブルグ市内にあるミルパーク病院に入院した。ネルソン・マンデラ財団報道官は、“定期検診のためであって危篤ではなく、意気高揚としている”と発表した。元大統領の多くの親族や要人、側近が続々と病院を訪れ、元大統領の健康を気遣う声が多く聞かれた。しかし28日、モトランテ副大統領より、マンデラ元大統領は急性呼吸器感染症を患ったが、すでに容体は安定しており、今後は自宅療養に入ると報告された。

#### ●2011地方選挙予想

26日、南ア人種問題研究所から、2006年度から昨年度までの間に行われた補欠選挙で、ANCが38地区を失った(17地区で勝利、55地区で敗退)一方、DAは24地区で勝利し(29地区で勝利、5地区で敗退)管轄区を増やしたとの調査結果が出された。同研究所は、2011年地方選挙では、例年どおり与党ANCが大多数の選挙区を獲

得するが、ANCの支持率低下が見られるだろうと予想した。

### ● I F P 分裂

26日、野党I F P（インカタ自由党）メンバーで次期党首とも目されていたザネレ・マグワナ・ムシビ女史は、5000人の支持者の前で、I F Pから身を引き新党N F P（国民自由党）を結成すると語った。女史は当決定について、自分からI F Pを辞職したわけではなく、I F Pによる免職を受け入れたとした。新党N F Pは2月12日に正式に立ち上げを行い、党首・要職選抜及び政策を決定し、今年行われる地方選挙に挑む予定となっている。

I F Pのブテレジ党首は、ムシビ女史の新党立ち上げについて、非常に遺憾であり裏切りを感じるとのコメントを発表。I F Pの次回地方選挙における支持率低下は避けられないとの見方がある。

### ● 民間労働ブローカー禁止の動き

労働者の雇用状況の改善をめざし、民間労働ブローカーの制度を改革し、段階的にブローカー業務を国家に全て移行するという労働改正案が客年12月に労働省から提起されたことを受け、1月は、民間の労働ブローカー（派遣業。短期・日雇い・臨時労働を斡旋する労働仲介業）の禁止若しくは改革をめぐる議論が多くなされた。現在南アの9つの州で公聴会が開かれ、議会への提出に先立った議論が行われている。改正案では、これまで民間ブローカーによって雇われた非正規雇用者は全て正規雇用者として雇用されることが期待されているが、改正案が通れば、雇用は拡大するどころか減少し、多くのレイオフが生じる可能性があるという見方が広がっている。

## 2. 外政関連

### ● ムベキ元大統領 スーダン訪問

4日、ムベキ元大統領は、9日に南部スーダン住民投票を控えるスーダンを訪問した。4日、ハルツーム大学での講演の中で、ムベキ元大統領は、住民投票開催を受け入れたバシル大統領を高く評価した。また、住民投票の結果に拘わらず、南北が協力的な関係を構築すべきであると述べた。

7日、ムベキ元大統領は、南部スーダンのジュバ大学での講演の中で、南部住民は、分離独立を選択するのであれば、近隣諸国との社会・経済関係を一層強化することに焦点を当てるべきであると述べた。また、人々を投票に導いたバシル・スーダン大統領とサルヴァキール・南部スーダン大統領の役割を高く評価した。

南アは、今次住民投票に対し、議会議員、政府関係者、市民団体など35名からなる監視チームを派遣しており、これがAU監視ミッションの一端を形成している。

### ● 南アの安保理非常任理事国任期開始

5日、ヌコアナ＝マシャバネ南ア国際関係・協力大臣は、南アの国連安保理の非常任理事国としての任期が開始したことを受けて、メディア向けのブリーフィングを行った。この中で、同大臣は、安保理改革は南アの2年間の任期中の主要な優先事項の一つと位置づけ、他の理事国に対して改革プロセスの早期完了の必要性につき説得していく考えであると述べた。また、国連安保理とAU安保理の連携や、安保理のアフリカ3国（ガボン、ナイジェリア、南ア）間の協力を強化すると述べた。

### ●ムセベニ・ウガンダ大統領、ソロ・コートジボワール首相、南ア訪問

20-22日、ムセベニ・ウガンダ大統領が南アを公式訪問した。21日にはズマ大統領と会談し、両国関係のほか、ウガンダが国境を接する南部スーダンの情勢等につき話し合った。その後、農業、保健、公共事業といった分野の署名式と共同記者会見を行った。22日は地方視察を行った。

27日、ソロ・コートジボワール首相が南アを訪問し、モトランテ副大統領と会談した。

### ●ズマ大統領、ダボス会議およびA U総会出席

ズマ大統領は、26日、2011世界経済フォーラムに出席するためスイスのダボスを訪問した。ゴードン財務大臣、パテル経済開発大臣、ファン＝スカルクヴェイク観光大臣、デーヴィス貿易・産業大臣、モレワ水・環境大臣、ピーターズ・エネルギー大臣が同行した。

ズマ大統領は28日にダボスを発ち、エチオピアのアジスアベバに到着、29-31日にはA U総会に出席した。なお、ヌコアナ＝マシャバナ国際関係・協力大臣は28日開催のA U閣僚執行理事会やその他の各種委員会に出席した。

## 3. 経済関連

### ●経済成長

世銀は2011年のサブサハラ・アフリカの経済成長予測を5.3%に引き上げた。同行のレポートによると、政府のインフラプロジェクトの加速化と消費回復によって、南アの経済成長率は2011年に3.5%、2012年に4.1%になると予測している。世銀はランド高が輸出業に影響を与え、製造業成長を抑制していることを認めている。

### ●自動車販売台数・輸出台数

南ア自動車製造者協会によると、2010年の新車販売台数は2009年比で24%増となり、乗用車に限っては30.6%増となった。これは個人購入者にとって低価格で支払い条件の魅力的な、新しいエントリーモデルが増えてきたことによるものと見られる。今年の全自動車販売台数はMcCarthy社CEOによると11.6%増、南ア自動車製造者協会によると7.5%増と予測されている。

### ●小売業

南ア統計局によると、11月の小売り販売は前年同月比7.8%増となり、予測値の6.8%増を上回っており南アは不況から脱したものと見られる。スタンダード・チャータードのエコノミストも南アの消費者はついに回復に至ったと指摘している。

### ●金利

南ア準備銀行の金融政策委員会は1月の定例会で現行の政策金利5.5%を維持することを決定した。現在、政策金利はここ30年で最低水準にある。マーカス準備銀行総裁は海外での食料と燃料価格の高騰が、南ア経済に最終的に影響を及ぼすと見ているが、国内経済の成長予測が改善していることを認めている。

### ●株式市場

ヨハネスブルグ株式市場の株式相場は、昨年、韓国、メキシコ、インド等と同程度の16.1%増となったが、トルコ、アルゼンチン、インドネシア、フィリピンのパフォーマンスを下

回った。ヨハネスブルグ株式市場相場は現在 32,000 を上回っており、世界不況前の 2008 年 5 月につけた 33,230 の記録的高値をわずか 3% 下回る程度にまで回復した。

#### ●南ア格付け

格付け会社フィッチは 1 月に南アの格付けを「ネガティブ」から「ステイブル」に上方修正し、南ア経済が不況から脱したと認識している。ここ 30 年で最低水準の政策金利が経済回復を後押ししているとフィッチは見ている。

#### ●海外直接投資

UNCTAD によると昨年の南ア向け海外直接投資は 80% 近くまで落ち込んだ。Nedbank のチーフエコノミストは、これはアフリカの国内市場の未発達、ANC 青年同盟による鉱山の国有化論、アングロ・アメリカン社とロンミン社の鉱山権をめぐる争議などいくつかの要因に基づいていると指摘している。

#### ●吸収合併

昨年の南アにおける吸収合併は消費者購買力の成長にともなって 133% の伸びを見せ、総額 157 億米ドルに達した。NTT の Dimension Data の買収 (28 億米ドル) と Gold Reef Resort の Tsogo Sun の買収 (28 億米ドル) などが大きな取引。

#### ●農業

1997 年から 1999 年にかけてサブサハラ・アフリカの可耕地の 22% のみが利用されたに過ぎず、2030 年までに 28% に達する程度と予測されており、アフリカの食料生産の増大の余地は残されている。ステレンボッシュ大学の農業経済学教授はインフラの未整備がアフリカにおける農業投資を妨げている最大の要因で、なかでも灌漑施設への電力供給網の不備が問題であると指摘している。また輸送コストの高さは食料生産コストの高騰を招いている。

#### ●独立電力生産者

独立電力生産者の導入は規制枠組みの不備により遅延する模様。エネルギー省は新規発電キャパシティ向けの規制の発布を加速化しており、1 月末までにとりまとめた考え。

## 4. 広報・文化

#### ●国際ボクシング連盟 (IBF) ミニマム級タイトルマッチ

29 日、ブラクバンにおいて国際ボクシング連盟 (IBF) ミニマム級タイトルマッチが行われ、同級 1 位の高山勝成選手が王者のヌコシナチ・ジョイ選手 (南アフリカ) に挑んだが、3 ラウンドに偶然のバッティングにより高山選手が右側頭部を切り、無効試合となった。

## 5. 警備・治安

#### ●車両に対する犯罪に注意

1 月 14 日の当地プレトリア紙に、プレトリア市内でスマッシュ・アンド・グラブの被害が多発しているとの注意喚起の記事が掲載された。特に市内中心部のサニー・サイド地区での被害が増加しており、警察によるとヨハネスブルグ市内でも増加傾向にある模様。その手口は巧妙で、タイヤがパンクしていると親切を装い車両から降ろさせたり、物乞い

に注意を傾かせ、その隙に犯行に及ぶそうである。

運転中、特に停車時には常に車両周囲に目を配り、危険を察知したときには直ぐに回避できるような態勢を整えておく事が肝要である。

具体的防御策としては、防御フィルムの装着や前車との間隔を空けて停車すること等が考えられる。窓ガラスもなるべく閉めておく方が望ましい。(数ミリ空けておくと、割る時間がよりかかるとの実験データもある。)

一方、車両リモコンロックの電波妨害を手口とした車上荒らしも増加している。

手口は、乗用車をリモコンでロックするタイミングで別の信号(同じ周波数)を送信する事により、車両が本来のロック信号を受信出来ないため施錠されず、施錠したと思い込んだドライバーが車両から離れた隙に犯人が車両に乗り込み、現金、パソコンなどの貴重品を奪うというものである。

当館にて実験したところ、スライディング・ゲート、ADT(警備機器)のリモコンが一部の車両を除き犯行可能だと判明した。

リモコンにおけるロック後、必ず実際に手でロックされているかの確認をする習慣が必要である。また、車両内に自宅のカギを置いておくことも危険である。ナビゲーションシステムを窃取した犯人が、自宅登録から住所を割り出し、盗んだカギで侵入強盗・窃盗の犯行に及ぶからである。